



塩屋地区

・北前船のふるさと

大坂や川崎日本海に近く塩屋港からや上流の瀬越町の大船のほかに、大きな川と陸の間に囲まれた大きな家、大邸宅があり、ここ瀬越は、塩屋、橋立とともに、北前船の基地のひとつだったところ。活躍の場は、大船主や船問屋が川にのぼりに舟をつね、村人の多くが、船乗りとして活躍し、たいへん豊かな村でした。この塩屋の「大邸宅」は、塩屋家とともに、日本海の自民といわれた大船主でした。高い壁をめくった広い、開敷、立ち並ぶ自民の土蔵、彫刻をほどこした立派な門構えが、当時の勢いを物語ってくれます。

・北前船

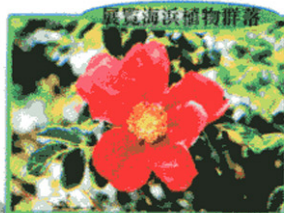
江戸時代中期から明治時代の中頃にかけて活躍した、日本海沿岸の主に北陸や東北地方の商船のことを北前船といえます。北前船は、大坂や瀬戸内海地方で、衣料・雑貨・砂糖・塩、酒などを積み込み、日本海沿岸に走りながら、支那地(北海道)まで行き、エシムやしめ物などの水産物や木材などを積んで港々で売ることをしていました。ですから今の運送業のように運搬手段をとるだけでなく、品物の売り買いも同時に行って、利益をあげていたのです。

・天覧海浜植物群

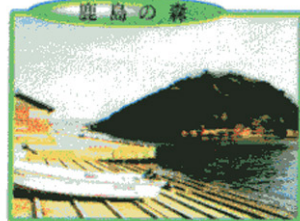
昭和58年5月津越町で開催された全国植樹祭に臨席された昭和天皇が塩屋海岸を歩かれ、一躍注目されました。その後、記念碑とお立ち台が市により設置された。

・鹿島の森

島の姿はどの方向から見てもソケイ型であり高さ30メートル、周囲600メートルで島全体が鹿島神社の社域であり、森そのものが信仰の対象として神秘的で、古くから地元の人々に崇拝されてきた。日本を囲む瀬越地区はすべてつる草がはびいて、カラタチハナ、ウスベニガナ等珍しい植物が自生し、その種類は64種もあるといわれている。ここに生えているといわれている「ヒタリマキマイマイ」や「赤下ガニ」は一般のものと形が違っているため、昭和13年には国の天然記念物に指定された。社域は数百平米、森を入れたことがなく、ソケイ・タブ・ツバキ等自然のままに成っている。昭和43年には特別保護地域として国定公園に指定された。



瀬越海浜植物群落



鹿島の森



北前船

スタート・ゴール
塩屋地区会館

塩屋町瀬越の歴史を歩くコース(5キロ)

塩屋地区会館(駐車場)⇒塩屋海水浴場(トイレ)⇒
塩屋港⇒鹿島の森(トイレ)⇒瀬越(北前船の家・大邸宅)⇒
塩屋地区会館

塩屋海岸松林を歩くコース(8キロ)

塩屋地区会館(駐車場)⇒塩屋海水浴場(トイレ)⇒
自然歩道(松林)⇒上木分岐点⇒上木町(駐車場)⇒
瀬越町⇒塩屋地区会館